

# 事新報

第百六十一號  
日曜日休刊

明治十八年五月六日  
（西曆一千八百八十五年）  
水曜日  
第九百六十一號  
日曜日休刊

官省院廳府縣  
相定候此旨相違候事

○東軍兵一師ヲ北道道要ノ地ニ充テ第七軍管轄下諸縣ニ全ク至レハ之ヲ廢スルモトス其本

○第二師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第一師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第六師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第七師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第八師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第九師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第十師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第十一師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第十二師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第十三師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第十四師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第十五師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第十六師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第十七師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第十八師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第十九師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○第二十師 屯田兵ノ建制ハ概シテ

○明治十七年十一月十三日  
步兵少佐從六位勳五等 山中 信儀  
勳四等賜旭日小綬章 栗飯原常世  
○明治十八年五月四日  
從五位 子爵 伊東 祐輔  
任職戶部宮司

賞勳 敘任

時事 報載

第三回ノ佛清紛議

佛清兩國ハ去月ノ初佛國ニテ内閣ノ更迭アル最中ニ休

戰ノ假條約ヲ結ビ同月中旬ヨリ東京并ニ臺灣ノ戰爭ヲ

停止シ佛國ニテハ既ニ臺灣北海等ノ封鎖ヲ解除シ清國

ノ又退々東京ノ兵ヲ引上ルノ用意ヲ爲ス其際ニ佛國

公使バテノ一とる氏ハ佛國政府ノ訓令ヲ帶ビテ清國

府ト平和條約ヲ締結セシガ爲メ去月十九日ヲ以テ上

海ヲ出發シ同日二十三日天津ニ到着シ清國ノ方ニテハ

駐總督李鴻章ガ全權大臣ニ總理衙門大臣錫珍鄧承修

二名カ副大臣ニ任セラレ天津ニ於テ會議ヲ開クベシト

ノコトナレバ昨今既ニ談判最中ナルベシト思ハル所ナリ

此談判ハ愈々平和ニ落着キテ兩國ノ間ハ再び從前ノ和

好ニ歸スベキカ又ハ如何ナル事情ニヨリテ談判不調

ニ終リ更ニ兩國間ノ戰爭ヲ引起スベキカ是等ハ最モ世

人ノ屬目スル問題ナレドモ此ハ別ノ問題トシテ假リニ

餘人ヲ殺シテ共佛軍ノ方ニテハ一モ其軍艦ヲ毀傷セ

ラレタルコト其死傷ノ數ヲ問ヘバ士官兵卒ヲ合セテ

僅ニ三十八人内外ナリト云フ此ノ如キハ千八百二十七年

十月英佛露三國ノ艦隊ガなばりの灣ノ一戰ニ土耳其格

ノ軍艦五十二艘ヲ擊沈シテ士兵七千人ヲ殺シタルヲ除キテ

ハ近代ニ於テ殆ソド前例ナキ大勝ナリト云フベシ其後

ニ至リテモ台灣ナリ浙江ナリ又東京ナリ荷モ戰爭ノ報

アレバ佛軍勝利ノ報ハ必ズ之ニ伴ヒ至ル有様ナリシ

三月下旬ニ至リテ突然佛國ノ敗北アリ此戰ハ實ニ佛軍

ノ敗北ニシテ然モ其敗北ハ頗ル大ナル敗北ナリシニ相

違ナレト雖モ佛軍ガ此一戰ニ敗北ヲ取リタルハ決シテ

其兵力ノ支那ニ敵セザルガ爲メニ非ズ當時ノ實際ヲ見

ルニ佛軍ハ開戰以來未ダ嘗テ敗北シタルコトナキナリ

能マテ清兵ヲ輕蔑シテ支那ノ大兵隊ヲ接シテ廣西ノ南境

ニ集ルニモ拘ハラズ專兵ヲ以テ深く關内ニ攻入りタル

ヲ以テ遂ニ敵兵ノ爲メニ背後ヨリ兵糧ヲ擄兵士ノ運路

ヲ遮斷セラレタル折柄無數ノ大軍ノ爲メニ前面ヨリ攻

撃セラレ衆寡敵セズ遂ニ敗走シ涼山迄支那兵ニ取戻

○萬國衛生會委員 羅馬府在駐田中特命全權公使内務

書記官永井久一郎江兩氏は伊國羅馬府に於て萬國衛生

會開設に付委員として參會とへき去月卅日仰付らる

○英國へ出張 海軍大佐伊東祐亨、海軍大尉山本權兵

衛、全縣原平二、海軍中尉出羽重遠、公使書記官、海軍大

橋、關士海軍大佐、海軍大尉野野島、海軍中尉野野島

多對三の諸氏一昨四日御用付英國へ進發はさる、

○會計検査出張 検査官濱弘一氏は去月廿一日會計檢

査院に於て第一區地方所在各縣會計検査として出張檢

査されたり

○米國總領事 として横濱ニ在留せし將軍ウヰンヒ

ユーレン氏は辭表を呈出したるよしあるが如何ありし

にや

○外務書記生 外務省准委任御用書記生野崎次郎氏は去

る二日外務書記生に任じ在露國公使館在勤申付けられ

同日外務書記生に任じ在露國公使館在勤申付けられ

三月十四日荷蘭海牙府にて死去したるよし既に記載

せしが爾後公使館内事務を代理すべきものゝなきよし